



令和2年7月28日

【取材のご案内】**観客は東京美術学校生が描いた自画像？あの巨匠の作品も！****「新しい日常における演奏会の在り方」について、澤和樹・東京藝術大学
学長とさだまさし・東京藝術大学客員教授が実験的に実施**

東京藝術大学（学長 澤和樹）では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴い、お客様を招いた演奏会を中止・延期しておりましたが、澤和樹学長とシンガー・ソングライターで本学客員教授（本年8月より、本学客員教授に就任）のさだまさしさんによるチャリティコンサート『和樹の部屋 特別篇 ～新しい日常へ～May new days come as soon as possible.』を開催する運びとなりました。さださんのご出演は、心に響く歌と絶妙なトークで大好評を博した昨秋の「和樹の部屋・第1回」に引き続き2回目となります。

本コンサートは今までの演奏会とは異なる、芸術の「未来のカタチ」を藝大として初めて発信する場と考えております。まず定員1000名の奏楽堂に、限定100名のお客様をお招きすることをはじめ、客席、ホワイエ、舞台裏でのソーシャルディスタンス確保など感染予防対策を図りながら実施いたします。今回さらに客席エリアでは、藝大美術学部の前身である「東京美術学校」時代の卒業生が制作した自画像の展示（座席に、複製したパネル等を置く簡易なものです）を予定しております。藝大が若手芸術家に向けて、新しい試みに挑戦しようとしているという「カタチ」を示す企画です。

観客として座席に並ぶ自画像には、現在「巨匠」と呼ばれる方々の作品も含まれております。この自画像を描いた時点では、巨匠も皆若い学生であり、今の学生たちや若手芸術家と同様に将来への期待と不安を抱えていたはずです。そんな「自画像」を観客として置くことで、過去と未来の時空を超えて繋がる空間が生まれるのではないかと考えました。藝大所蔵の「自画像」には、藝大美術史を語る上でも他の写真や絵画にはない魅力と意義があり、音楽にとどまらずこれらの美術作品とのコラボレーションは、他のコンサートホールでは決して真似できないものです。本公演は、「自画像」という過去の若手たちが、美術、音楽等の分野を超えて、奏楽堂という場でエールを発信するという企画です。（自画像作品には、公募による現役学生・教職員の作品も含まれます。）

当日の進行では音楽だけでなく、美術、映像のチームらが一体となり実施に取り組むことで、コロナ禍では初の「オール藝大による発信の場」としたいと考えております。ご支援いただいている皆様に向けて、若手芸術家に向けて、藝大が挑戦する「新しいカタチ」を、ぜひご確認いただきたく、皆様ご多忙のなか誠に恐縮ではございますが、ぜひご取材を賜りますようお願い申し上げます。

記

- 公演名：和樹の部屋 特別篇～新しい日常へ
～May new days come as soon as possible.
- 日 時：2020年8月2日（日）15:00 開演（14:15 開場）
※公演は2時間を予定
- 場 所：東京藝術大学奏楽堂（大学構内 / 東京都台東区上野公園 12-8）
- 出 演：澤和樹（東京藝術大学長、ヴァイオリニスト）
さだまさし（シンガー・ソングライター、小説家）
箭内道彦（プロデューサー、MC）
廣江理枝（パイプオルガン） ほか

【ご取材に際して】

- 本イベントは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご取材には人数制限を設けさせていただき、ソーシャルディスタンスの確保など感染防止対策に注意しながら開催させていただきます。何卒ご理解とご協力を頂けますと幸いです。
- 会場内のソーシャルディスタンス確保のため、TV／新聞／雑誌／オンライン等各メディアカテゴリにご参加いただける人数に限りがございます。ご取材ご希望の方はお早めのお申し込みをお願い申し上げます。
- 取材のお申し込みは、別紙に必要事項をご記入のうえ FAX にてお送りください。事前のお申し込みがない場合は、ご入場をお断りすることがございます。
- 演奏撮影をご希望の場合は、別途制限がございますので必ず前日までにお申し込みください。
- 申し込み締め切りは7月31日（金）12時です。

<問合せ先>

東京藝術大学 社会連携課 神永
電 話 050-5525-2051
E-mail kenkyo@ml.geidai.ac.jp



TOKYO GEIDAI

【FAX 返信用紙】

FAX : 03-5685-7761

東京藝術大学「和樹の部屋～特別編」

お手数ですが、下記の項目にご記入のうえ、7月31日（金）12:00 までに、上記 FAX にご返信いただきますよう、お願い申し上げます。

ご出席

ご欠席

貴社名 :

貴媒体名 :

役職/お名前 :

様 /

名様

撮影ご希望 カメラ : スチール

台 / ムービー

台

(※カメラはムービー/スチール問わず 1社1台までとさせていただきます)

ご連絡先 : (TEL)

(FAX)

E-mail :

通信欄 :

本件に関するお問い合わせ先
東京藝術大学 社会連携課 神永
TEL : 050-5525-2051 / FAX : 03-5685-7761



曲目 「終の花」「風に立つライオン」「さだまさしの名によるワルツ」他 ミニ和樹の部屋アンサンブル
 主催：東京藝術大学 制作：東京藝術大学演奏芸術センター
 問い合わせ先：東京藝術大学総務課総務・広報係 TEL:050-5525-2026
 注意事項：敷地内禁煙となります。就学前のお子様のご同伴・入場はできませんのであらかじめご了承ください。

学長と話そう
 コンサート
 和樹の部屋
 特別篇

東京藝術大学長、ヴァイオリニスト

澤 和樹

シンガー・ソングライター、小説家

さだまさし

プロデュース・MC 箭内道彦
 パイプオルガン 廣江理枝

May new days come
 as soon as possible.

東京藝術大学奏楽堂 [大学構内]

～ 新しい日常へ ～

2020.8.2 sun 15:00 開演 14:15 開場



POWER TO THE ARTS.

新型コロナウイルス感染症緊急対策 東京藝術大学 若手芸術家支援基金
 ～若手芸術家の今を救う。未来のカタチを模索する。芸術の力を、新しい日常に。新しい世界に～

チケットを御希望の方は、藝大クラウドファンディングHPをご覧ください。
https://readyfor.jp/projects/power_to_the_arts



encounter

箭内 去年11月に本学学長と話そうコンサート「和樹の部屋」東京藝術大学奏楽堂で、第一回のゲストがさださんで、大変盛況いただきました。

さだ 楽しかったですね。光栄でした。

箭内 「さだまさしの名によるワルツ」が生まれたり、その後、「柊の花」のコラボがされたり、また今日の場があったりと、いろんなきっかけになったなあって思います。今年のゲストどうしようかとの話では、澤学長から、さださんでも一回と(笑)。

さだ ありがとうございます！

箭内 それで、去年は「さだまさしの復讐劇」って、正門をくぐれなかったさだまさしが裏門から入ってくるっていうドラマがありましたけれど。

さだ ありましたね。

箭内 今年はコロナ禍の中、さださんも応援団に加わってくださっている、東京藝術大学若手芸術家支援基金が募った支援への感謝と、新しい日常における、オフラインとオンラインの演奏会のあり方を提示するコンサートになります。もちろん若手芸術家の方々の力も集めて。

さだ そうですね。せっかくの記念すべき一曲なので「柊の花」は聴いていただきたいなと思います。また先生セリで上がってきてください。

一同 (笑)



さだ 最高でしたよ、セリでグーっと上がってくるのね。

澤 今度は天井からぶら下がって降りて来ようかと思っていました。

さだ いいですね(笑)。そういう学長の部屋にお招きいただくって、とんでもないおもしろいことができるといいなと僕は思いますね。

澤 今回は、美術や映像の要素も含んだオール藝大を象徴するものにしたいと思っています。また、このコンサートへのご招待を、東京藝術大学若手芸術家支援基金クラウドファンディングへのリターンにもしたいと考えました。

さだ いいですね。僕もせっかくお招きいただくんだから何かお手伝いできたらなあと思います。

澤
箭内 ありがとうございます。



〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8
上野駅・日暮里駅から 徒歩10分

デザイン：村上朝来 (東京藝術大学大学院美術研究科卒)



comment

昨年11月に東京藝大が誇る奏楽堂にゲストをお招きするトーク&コンサート「和樹の部屋」をスタートさせました。さだまさしさんを記念すべき第1回のゲストとしてお迎えし、満席のお客様とともに、素敵な音楽と箭内道彦教授を交えての抱腹絶倒のトークで大いに盛り上がりました。さださんの格別のご配慮で、演奏会収益を大学にご寄附いただくファンディング・コンサートとして大成功のうちに終わることが出来ました。この演奏会がご縁で、その後も、さださんの最新アルバム「存在理由」の収録、そしてNHK「うたコン」での共演と続きます。8月2日に再び奏楽堂での共演が実現の運びとなりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今回は、奏楽堂にたくさんのお客様をお迎えすることは出来なくなりました。そこで、さださんともご相談し、6月9日にスタートした「若手芸術家支援基金」にご支援いただいた皆様への感謝と若手芸術家にエールを送る演奏会とさせていただきます。引き続き「若手芸術家支援基金」#Power to the Artsへのご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

東京藝術大学長 澤 和樹

「夢の続き」

東京藝術大学奏楽堂で昨年11月4日に見せていただいた「夢」には、驚くべき「続き」がありました。

僕の最新アルバム「存在理由」で、澤学長作曲の「さだまさしの名によるワルツ」を藝大の学生さん達と共演・収録、また「柊の花」という曲では澤学長のヴァイオリンとの共演・収録。とても嬉しくて長い夢を見ているようでしたが、その夢にはまだまだもう一つの「続き」がありました。

再び奏楽堂にお招きを頂いたのです。

さて今度は何が待っているのでしょうか。

夢はまだまだ続くようです。

さだまさし

profile



澤 和樹
(東京藝術大学長、ヴァイオリニスト)

1955年和歌山市生まれ。'79年東京藝術大学大学院音楽研究科修了。ロン=ティボー、ヴィエニャフスキ、ミュンヘンなどの国際コンクールに入賞。イザイ・メダル、ボルドー音楽祭メダル受賞など、ヴァイオリニストとして国際的に活躍。'90年、澤クワルテット結成。'96年、指揮活動開始。2004年和歌山県文化賞受賞。'15年、英国王立音楽院名誉教授。副学長、音楽学部長を経て、'16年4月より東京藝術大学長。



さだまさし
(シンガー・ソングライター、小説家)

1952年長崎県生まれ。'73年にフォークデュオ「グレープ」を結成、'76年にはソロシンガーとして活動開始。今年2020年アルバム「存在理由～Raison d'être～」映像作品「さだまさしコンサートツアー2019～新自分風土記～」2形態を発売。2020年全国コンサートツアーも決定している。又、「公益財団法人 風に立つライオン基金」設立者として様々な助成事業や被災地支援事業を行っている。



箭内 道彦
(クリエイティブディレクター)

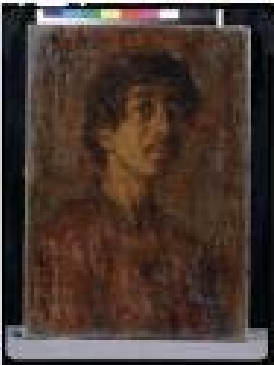
1964年福島県郡山市生まれ。東京藝術大学美術学部デザイン科卒。博報堂を経て、「風とロック」設立。主な仕事に、タワーレコード「NO MUSIC, NO LIFE.」、リクルート「ゼクシィ」、FUJIFILM「PHOTO IS」、サントリー「ほろよい」、グリコ「ビスコ」など。福島県クリエイティブディレクター。2011年NHK紅白歌合戦に出場した猪苗代湖ズのギタリストでもある。現在、東京藝術大学美術学部デザイン科教授であり、学長特命(広報・ブランディング戦略担当)を務める。

■参考【設置する自画像（一部）】



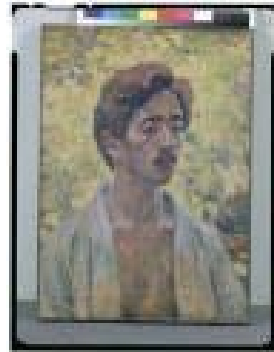
白滝幾之助（1873-1960）西洋画科卒 1898年作

兵庫生まれ。山本芳翠の生巧館画学校に入門、ついで黒田清輝に師事。1896年に東京美術学校西洋画科3年に編入、翌1898年卒業。その後7年間欧米へ游学。1903年のセントルイス万博に出品している。フランスではラファエル・コランのもとでも学んだ。帰国後は光風会、文展、帝展等に出品した。藝大美術館には、卒業制作《稽古》、そして自画像が収蔵されている。



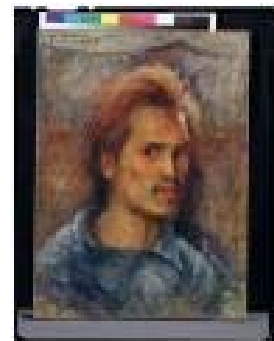
青木繁（1882-1911）西洋画科卒 1904年作

福岡生まれ。画家を目指して上京し、小山正太郎の画塾不同舎で学び、1900年に東京美術学校西洋画科撰科入学。1903年の在学中に第8回白馬会展に神話画稿を出品して白馬会賞受賞。翌1904年卒業。同年秋に第9回白馬会展に出品した《海の幸》が画壇に大いに注目されたが、28歳で亡くなった。藝大美術館には、自画像とともに《黄泉比良坂》（1903年）が収蔵されている。



萬鉄五郎（1885-1927）西洋画科卒 1912年作

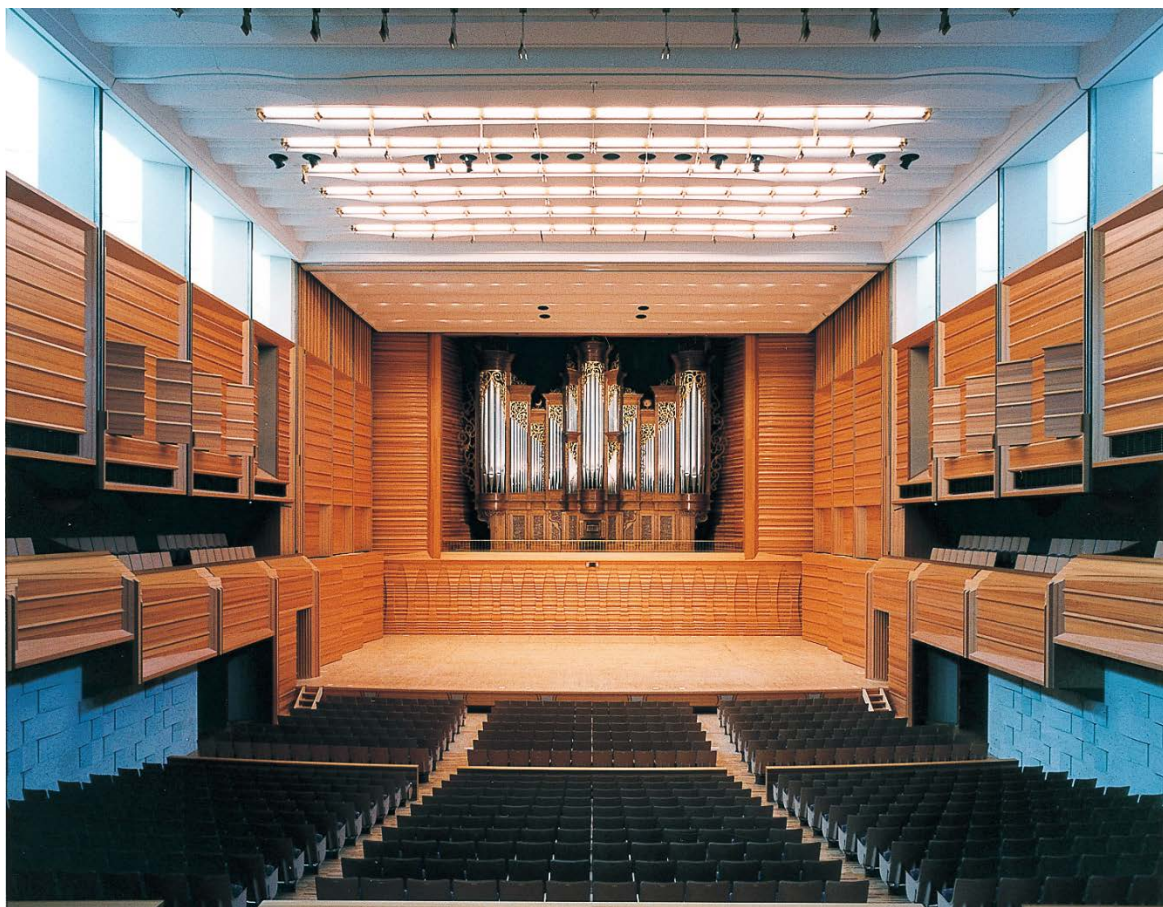
岩手生まれ。上京し、早稲田中学在学中の1905年に白馬会第二洋画研究所でデッサンを学び始める。1907年に東京美術画稿西洋画科に入学。在学中にアブサント会展にも出品している。1912年に卒業、卒業制作の《裸体美人》（重要文化財・東京国立近代美術館蔵）は「ゴッホやマチスの感化にあるもの」と作者が語るように、我が国におけるフォーヴィ済むの最初期の例と言える。卒業後は第1回ヒュウザン会に出品、帝展、二科展に出品したが、1927年に41歳で亡くなる。藝大美術館には、自画像とともに風景デッサン数点が収蔵されている。



佐伯祐三（1898-1928）西洋画科卒 1923年作

大阪生まれ。中学の頃より赤松林作の画塾で学ぶ。1918年に東京美術学校西洋画科に入学、1923年に卒業。同年に関東大震災の混乱があったが、翌1924年には渡仏しパリで学び始める。ヴラマンク、そしてユトリロに感銘を受け、パリの裏町をテーマとして描くようになる。翌1925年のサロン・ドートンヌで《靴屋》が入選。帰国後には1930年協会結成に参加、二科展にも特別出品したが、1928年、結核のためフランスでなくなる。藝大美術館には、自画像とともに《セーヌ河の見える風景》（1924年）が収蔵されている。

■参考【東京藝術大学奏楽堂】



東京藝術大学奏楽堂は、1998年（平成10年）4月、コンサートホールとして新しく建設されたものです。ホール全体が一つの優れた楽器として、調和のとれた響を生むものとして考え、音響特性を使用目的に応じて変えられるよう、客席の天井全体を可動式にして音響空間を変化させる方法を採用しています。

また、古典から現代作品を演奏出来るフランスのガルニエ製オルガンを設置してあります。

奏楽堂竣工時の文部大臣の町村信孝氏は奏楽堂開館を祝う特別コンサートプログラムに寄せた祝辞のなかで、「日本における西洋音楽の歴史は東京音楽学校の奏楽堂から始まった」と言えるが、「新しい奏楽堂は二十一世紀に向けて新たなる芸術文化の創造と発信拠点」となるだろう、と述べている。